

部課名		下水道部下水道経営総務課											
課の使命		<ul style="list-style-type: none"> 市民に安全で衛生的な生活環境を提供するために、下水道事業の進捗管理を行い、効率的で健全な下水道事業経営を行います。 下水道部各課の情報を迅速に共有し、関係部署との調整を行い、部内の円滑な業務遂行を図ります。 											
実行計画(年度目標)													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	中間確認			年度未確認				
						進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	経営改革プラン	「未来につながる下水道事業プラン」に基づく進捗確認及び評価分析	「未来につながる下水道事業プラン」(町田市下水道事業経営戦略)に基づき事業の進捗確認及び経営の健全性や効率性、施設の老朽化の状況などの評価分析を行います。	進捗確認及び評価分析	実施	○	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度に実施した各事業の進捗状況を取りまとめました。 「経営の健全性」「経営の効率性」「施設の老朽化の状況」について、2024年度決算を踏まえて、総務省が示す経営指標に基づき経営分析を行いました。分析した経営指標を、町田市下水道事業審議会において「経営戦略の改定」に関する審議に活用しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の進捗状況や決算、他市との比較を踏まえた経営分析の結果を、町田市下水道事業審議会に提示します。 	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度に実施した各事業の進捗状況を取りまとめ、概ね良好であることを確認しました。 2024年度決算を踏まえて、総務省が示す経営指標に基づき経営分析を行い、町田市下水道事業審議会における審議に活用しました。また、他市の指標と比較した上で経営分析を行い、同審議会に提示しました。経営状況は概ね良好であるものの、今後計画的な施設修繕や改築更新等の事業実施が必要であることを鑑み、下水道使用料の見直しを含めた収益増進が必要であることを確認しました。 	実施	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、「未来につながる下水道事業プラン」に基づく進捗確認及び評価分析を行います。
2	事務事業見直し	下水道事業の民間活力導入に関する検討	適正な事業手法を目指すために、事業の計画段階で事業者の意見や意向の把握(マーケットサウンディング)を行いながら、複数の事業スキームを評価し、選定作業を行います。	下水道事業手法の選定	完了	△	<ul style="list-style-type: none"> 6月に国が主催する「水分野のPPP/PFI(官民連携)推進会議」に参加し、最新の動向、ガイドラインの更新状況などを確認しました。7月にウォーターPPPに係るマーケットサウンディング(参入意向)調査資料を作成しました。事業スキーム案の検討に時間を要したことから、当初予定していたマーケットサウンディングの実施時期に遅れが生じています。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月以降にマーケットサウンディングを行い、複数の事業スキームを評価し、下水道事業手法を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 国が主催する「水分野のPPP/PFI(官民連携)推進会議」に参加し、最新の動向、ガイドラインの更新状況などを確認しました。 12月にマーケットサウンディング(アンケート)を行い46社から回答を受領しました。また、ウォーターPPP導入の必要性や事業スキーム(案)についての説明会を開催しました。ただし、マーケットサウンディング前の事業スキーム案の検討に時間を要したことから、事業スキーム案の選定まで至りませんでした。 	未完了	D	D:取り組みましたが、成果が不十分です。	今後も事業スキーム選定に向けて詳細なマーケットサウンディング調査を実施します。選定した下水道事業手法に応じた事業への個別ヒアリング、発注図書を作成準備、公募・選定の方法等を検討していきます。
3	事務事業見直し	安定した下水道事業経営の推進	将来を見据え安定した下水道事業経営を継続するため、経営戦略の改定及び下水道使用料のあり方について検討します。	①経営戦略の改定 ②下水道使用料の改定	①完了 ②改定案の作成	○	<ul style="list-style-type: none"> 町田市下水道事業審議会を3回開催し、以下の審議を行いました。 ①経営戦略の改定に向けて、現状と課題、効率化・経営健全化の取組み、今後の事業計画などについて審議しました。 ②下水道使用料のあり方などについて審議しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ①審議会において、経営戦略の改定内容を審議します。審議会答申を受けて、経営戦略の改定を行います。 ②引き続き、審議会において、下水道使用料のあり方などについて審議します。審議会答申を受けて、使用料改定案を作成します。 	<ul style="list-style-type: none"> ①審議会において、経営戦略の改定に向けて、現状と課題、効率化・経営健全化の取組み、今後の事業計画など経営戦略の改定内容を審議しました。審議会の答申を受け、3月に経営戦略の改定を行いました。 ②審議会において、下水道使用料のあり方を検討した結果、改定の必要性、改定率、使用料体系などについて審議しました。審議会の答申を受け、使用料の改定案を作成しました。 	①完了 ②改定案の作成	C	C:目標水準を達成したためです。	改定した経営戦略の周知を行うとともに、下水道使用料改定に向けて市民意見募集などの準備を進めます。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定				中間確認		年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	個別 計画	①「町田市下 水道強靭化計 画」の策定 ②「町田市公 共下水道事業 計画」の変更	①大規模地震の発生や気候変動による水害に備え、町田市の下水道施設を強靭化するため、「町田市下水道強靭化計画」を策定します。 ②2024年度に改定した町田市公共下水道全体計画を基に「町田市公共下水道事業計画」を変更し、汚水処理水の水质改善や浸水被害の軽減に向けた取り組みを進めます。	①計画の策定 ②事業計画の変更	①完了 ②変更	△	①-1強靭化計画の内、雨水管理総合計画については、公表に向けて関係者と協議を行いながら内容の精査を進めています。 ①-2強靭化計画の内、雨天時浸水対策計画については、部内検討会を開催し、課題を共有しました。 ②業務委託契約を締結し、東京都と協議しながら変更図書作成業務を進めています。策定作業に時間を要したことから遅れが生じています。	①-1雨水管理総合計画は、内容の精査を完了し、年度内にホームページに公表します。 ①-2上半期に共有した課題について第2回検討会で検討し、年度内にホームページに公表します。 ②12月に事業計画変更の縦覧を行い、1月に東京都へ申請し、年度末までに承認を得ます。	①-1雨水管理総合計画は、重点対策地区や段階的対策スケジュール等の内容の精査を完了し、ホームページで公表しました。 ①-2雨天時浸水対策計画は、基本方針、発生源対策や施設対策等の検討結果を踏まえ、課題の解決を図り計画を策定し、ホームページで公表しました。 ②事業計画について、東京都の「多摩川・荒川等流域別下水道整備総合計画」を踏まえた諸元を見直すとともに、事業計画区域の拡大、処理区、期間延伸などの変更を行いました。	①完了 ②変更	C	C:目標 水準を達 成したた めです。	①今後は、計画に則り浸水対策や雨天時浸水対策の実施及び効果を検証し、必要に応じて計画を見直します。 ②次の事業計画変更により、下水道部の各計画の変更等を適切に反映するよう、部内で情報共有を図ります。
5	個別 計画	下水道BCP (下水道事業 継続計画)等 の災害対応計 画に基づく管 理・運用及び 訓練や研修の 実施	下水道事業継続マネジメント部会を開催し、災害時対応等について検討します。大規模災害が発生した場合でも、下水道が果たすべき機能を速やかに、かつ高レベルで確保するため、部内で訓練や研修を実施します。	訓練や研修の実施回数	4回	○	・下水道事業継続マネジメント(下水道BCM)部会を4回開催し、下水道BCPの維持改善に努めました。 ・風水害対策を目的として、5月に止水板の設置訓練、8～9月に防災システム入力研修を行いました。 ・(仮称)下水道BCP火山災害対策編は、国や東京都の動向を注視しつつ、BCM部会で情報共有を行い、2027年度策定を目指して取り組みを開始しました。	下水道BCM部会を3回開催し、下水道BCPの維持改善に努めると共に、マニュアルの見直しを行います。 地震対策を目的とした訓練を2回実施します。	訓練を以下の4回実施し、災害対応能力の向上を図りました。 ・5月に風水害訓練(実働)を実施しました。 ・8～9月に風水害研修(防災システム入力)を部内全職員を対象に実施しました。 ・11月に震災対応訓練(実働)を実施しました。 ・1月に震災対応訓練(図上)を実施しました。 ・訓練後のアンケート結果等を参考に、下水道BCPマニュアルの一部を修正しました。 また、年間を通じて下水道BCM部会を全7回開催し、下水道BCPの運用管理を行いました。 加えて、12月に課内全職員を対象に下水道事業継続計画(BCP)重要事項の理解を深めるため資料配布と確認テストを実施しました。	4回	C	C:目標 水準を達 成したた めです。	今後も訓練を実施し、大規模災害が発生した際は、下水道が果たすべき機能を迅速かつ十分に確保できるようにします。
6	個別 計画	下水道事業に 関するPRの推 進	下水道の仕組みなどについて、ホームページ上での説明、下水道広報紙の発行等により、下水道事業に関するPRを行います。	市民等への情報発信回数	5回	○	下水道事業に関するPRを以下の3回実施しました。 ・7月13日に鶴見川源流交流会に参加し、流域で活動している団体や流域自治体と交流を図りました。 ・9月1日に下水道PR広報紙「まちだ下水道通信」を発行し、市内約6万7千世帯及び市民センター等に8,400部配布しました。発行について町田市ホームページのほか、カタログポケットなどのデジタルツールも活用し、周知を行いました。 ・9月8日から5日間、市庁舎1階にて「下水道の日」のイベントを開催し、動画やパネル展示でPRを行い、405人の来場者がありました。	・2月28日に「まちだECOtoフェスタ」に参加してPRを実施します。 ・9月1日に下水道施設の老朽化・維持管理をテーマとした下水道PR広報紙「まちだ下水道通信」を発行しました。 ・9月8日から5日間、「下水道の日」イベントを開催し動画やパネル展示等でPRを実施しました。 ・2月28日に「まちだECOtoフェスタ」に参加してPRを実施しました。 ・3月28日に成瀬クリーンセンターさくらまつりを開催しPRを実施しました。	下水道事業に関するPRを以下5回実施しました。このうち「まちだ下水道通信」は約76,000部配布したほか、LINEのプッシュ通知、町田市ホームページ、カタログポケットのデジタルツールも活用し、広く市民に周知しました。 ・7月13日に鶴見川源流交流会にて、流域で活動している団体や流域自治体と交流を図りながら下水道事業を周知しました。 ・9月1日に下水道施設の老朽化・維持管理をテーマとした下水道PR広報紙「まちだ下水道通信」を発行しました。 ・9月8日から5日間、「下水道の日」イベントを開催し動画やパネル展示等でPRを実施しました。 ・2月28日に「まちだECOtoフェスタ」に参加してPRを実施しました。 ・3月28日に成瀬クリーンセンターさくらまつりを開催しPRを実施しました。	5回	C	C:目標 水準を達 成したた めです。	引き続き、下水道の役割や課題、魅力を多くの市民等に理解してもらえるようにPR活動を実施していきます。
7	人材 育成	「チームワーク 志向」	下水道事業の基礎知識や経営意識の向上を図るため、新入職員、異動職員や部内の職員に向けた部内研修を実施します。	部内研修の実施回数	2回	○	部内研修を以下の1回実施しました。 ・5月に異動職員に向けた部内研修を実施し、18名が受講しました。	・2月に部内職員に対し、「公営企業会計」の研修を実施します。	部内研修を以下の2回実施しました。 ・5月に異動職員を対象に部内研修を実施しました。 ・12月に部内全職員を対象に「公営企業会計」の研修を実施しました。	2回	C	C:目標 水準を達 成したた めです。	今後も様々な研修を継続的に実施し、円滑な業務遂行と、より一層の知識や経営意識の向上を図っていきます。

部課名		下水道部下水道整備課												
課の使命		・豪雨による浸水や地震による被災への備えと対策を強化し、災害に強いまちづくりを進め、安心な暮らしを築きます。 ・水路や河川の水質向上を図り、快適な住環境を確保するため、汚水管と合併処理浄化槽による整備を進めます。												
実行計画(年度目標)														
		年度目標設定				中間確認			年度末確認					
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応	
1	重点事業プラン	雨水管の整備	浸水被害を軽減するために、雨水幹線や枝線の工事を行います。	浸水対策事業における完了箇所数	3箇所	△	<ul style="list-style-type: none"> 日向台交差点北側エリアの浸水対策箇所については、2023年度より引き続き整備を進めていますが、支障物の移設やその調整に時間を要したため、遅れが生じています。 南町田五丁目エリアの浸水対策箇所については、2025年1月に契約を締結し、順調に進捗しています。 南町田三丁目エリアの浸水対策箇所については、8月に契約を締結し、順調に進捗しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な施工管理及び他企業との調整を行い、整備を進めていきます。 受注者や関係者との調整を綿密に行い、工期内の工事完了を目指します。 受注者や関係者との調整を綿密に行い、工期内の工事完了を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 日向台交差点北側エリアの浸水対策箇所については、支障物移設やその調整に時間を要し、工事進捗に遅れが生じたため、年度内に完了することができませんでした。(工事進捗率:約70%) 南町田五丁目エリアの浸水対策箇所については、受注者や道路管理者、地域住民等関係者との調整を密に行った結果完了しました。 南町田三丁目エリアの浸水対策箇所については、資材置き場の手配等に時間を要し、年度内に完了することができませんでした。(工事進捗率:約80%) 	1箇所	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	<ul style="list-style-type: none"> 日向台交差点北側エリアについては、今後工程に遅れが生じないよう、関係機関との調整を綿密に行い、2027年度に工事を完了させます。 南町田三丁目エリアについては、工程に遅れが生じないよう、関係機関との調整を綿密に行い、2026年度に工事を完了させます。 	
2	重点事業プラン	雨水管の耐震診断	重要な幹線等のうち、液状化発生が予測される地域に布設された雨水管について、耐震化状況を確認するための耐震診断を行います。	雨水管耐震診断延長	4.5km	○	雨水管の耐震診断については、6月に契約を締結し、8月に調査に着手しました。	受注者や関係者との調整を綿密に行い、工期内の耐震診断完了を目指します。	目標値である4.5kmを上回る4.7kmの診断を実施し、雨水管の耐震診断については完了しました。	4.7km	C	C:目標水準を達成したためです。	雨水管の耐震化の推進に向けて、計画的に設計・工事を進めていきます。	
3	個別計画	下水道管の改築更新	下水道施設の予防保全型維持管理を計画的に行うため、「管路修繕・改築計画」をもとに、改築工事を実施します。また、詳細設計を発注し、次年度の改築工事に向けて準備をします。	改築工事延長	9.7km(累計)	○	※当初計画にない緊急工事0.3kmが追加で発生し、改築延長に反映したため修正しました。	2025年度に計画していた改築更新工事全3件については、5月に契約を締結し、順調に進捗しています。また、設計業務委託を6月に契約を締結し、次年度に向けた準備を開始しました。	受注者や関係者との調整を綿密に行い、工期内の工事完了を目指します。また、次年度の改築更新工事の準備を進めます。	小川地区、三輪町地区等3件の改築工事をおわせて、3.8km実施し、改築工事延長は累計9.7kmとなりました。また、次年度の改築工事のための詳細設計は予定どおり完了しました。	9.7km(累計)	C	C:目標水準を達成したためです。	町田市ストックマネジメント計画に基づき、計画的に改築更新工事を進めていきます。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	事務 事業 見直し	下水道事業の民間活力導入に関する検討	適正な事業手法を目指すために、事業の計画段階で事業者の意見や意向の把握(マーケットサウンディング)を行いながら、複数の事業スキームを評価し、選定作業を行います。	下水道事業手法の選定	完了	△	6月に国が主催する「水分野のPPP/PFI(官民連携)推進会議」に参加し、最新の動向、ガイドラインの更新状況などを確認しました。7月にウォーターPPPに係るマーケットサウンディング(参入意向)調査資料を作成しました。事業スキーム案の検討に時間を要したことから、当初予定していたマーケットサウンディングの実施時期に遅れが生じています。	10月以降にマーケットサウンディングを行い、複数の事業スキームを評価し、下水道事業手法を検討します。	国が主催する「水分野のPPP/PFI(官民連携)推進会議」に参加し、最新の動向、ガイドラインの更新状況などを確認しました。また、12月にマーケットサウンディング(アンケート)を行い46社から回答を受領しました。また、ウォーターPPP導入の必要性や事業スキーム(案)についての説明会を開催しました。ただし、マーケットサウンディング前の事業スキーム案の検討に時間を要したことから、事業スキーム案の選定まで至りませんでした。	未完了	D	D:取り組みましたが、成果が不十分です。	今後も事業スキーム選定に向けて詳細なマーケットサウンディング調査を実施します。選定した下水道事業手法に応じた事業者への個別ヒアリング、発注圖書の作成準備、公募・選定の方法等を検討していきます。
5	事務 事業 見直し	事業の廃止・縮小(合併処理浄化槽設置事業補助金制度の変更)	「町田市公共用水域水質改善10ヶ年計画」に基づき、2026年度までに、合併処理浄化槽への転換に伴う補助制度の見直しを行います。	①制度改正方針案の決定 ②制度改正の周知	①決定 ②周知	○	①合併処理浄化槽への転換に伴う補助金額の見直し案の検討を進めました。 ②制度改正の周知方法等の検討を行い、準備を進めました。	①引き続き、合併処理浄化槽への転換に伴う補助金額の見直し案の検討を進め、方針を決定します。 ②補助金額の見直し方針決定後に制度改正の周知を行います。	①合併処理浄化槽への転換に伴う補助金額の見直しの検討を行い方針を決定しました。 ②制度改正の方向性について、ホームページ及び啓発訪問時に周知を行いました。	①決定 ②周知	C	C:目標水準を達成したためです。	公共用水域の水質改善へ向けて、適正な浄化槽の維持管理を行うよう啓発活動及び制度の利用促進を行っています。
6	事務 事業 見直し	事業の廃止・縮小(浄化槽維持管理費補助金制度の変更)	「町田市公共用水域水質改善10ヶ年計画」に基づき、2026年度までに、単独処理浄化槽への維持管理費補助金制度の見直しを行います。	①制度改正方針案の決定 ②制度改正の周知	①決定 ②周知	○	①単独処理浄化槽への維持管理補助金額の見直し案の検討を進めました。 ②制度改正の周知方法等の検討を行い、準備を進めました。	①引き続き、単独処理浄化槽への維持管理補助金額の見直し案の検討を進め、方針を決定します。 ②補助金額の見直し方針決定後に制度改正の周知を行います。	①単独処理浄化槽への維持管理補助金額の見直しの検討を行い方針を決定しました。 ②今後の方向性について、ホームページ等で周知を行いました。	①決定 ②周知	C	C:目標水準を達成したためです。	公共用水域の水質改善へ向けて、適正な浄化槽の維持管理を行うよう啓発活動及び制度の利用促進を行っています。
7	人材 育成	「チャレンジ志向」	「第1次町田市職員人材育成総合プラン(案)」に基づき、最新技術や先進手法に関する研修会などに参加します。	研修会への参加	2回	○	上半期に、自治体向けのDX研修に2回参加し、他自治体の事例から市民目線に立ってサービスを構築することを学びました。	新たな知識や技術によって常に進歩している施工管理に関する手法を学ぶ研修に参加します。さらに、先進手法を学ぶ研修があれば、積極的に受講します。	自治体向けのDX研修に4回、新たな知識や技術によって常に進歩している施工管理に関する手法を学ぶ研修に1回参加し、研修資料の閲覧等により課内周知を図りました。	5回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、最新技術や先進手法に関する研修に参加し、業務に活かします。

部課名		下水道部下水道管理課											
課の使命		<p>「水」が滞りなく流れるよう予防保全型の維持管理を進め、安定的な機能確保を図り、啓発活動を通じて市民の皆様とともに「良好な水環境」を次世代につなげます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水道施設(管きよ、水路、調整池等)の維持管理を適切に行います。 ・下水道施設を計画的に修繕し、老朽化による破損を未然に防ぎます。 ・下水道施設のパトロールを行い、豪雨による浸水被害を軽減します。 ・下水道施設、宅内排水設備の適切な設置を指導します。 ・適正に下水道台帳を閲覧できるようにします。 											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	個別計画	ストックマネジメント※による下水道事業の推進 (※ストックマネジメント:良好な下水道サービスを継続的に提供するための事業運営)	下水道施設の予防保全型維持管理を計画的に行い、今後増大する維持管理コストの平準化を図るため、基本計画に基づき、「町田市下水道管路施設資産管理第3期調査実施計画」による点検・調査を行います。	劣化状況の点検・調査延長	6km	○	管路の劣化状況の点検・調査に向けて設計書や計画の作成を行いました。9月に業務委託契約を締結し、同月に調査に着手しました。	管路の点検・調査の結果を分析し、劣化状況の評価を行います。	下水道管の劣化状況を把握するため、簡易調査業務委託で4.8kmの点検調査を実施しました。それに加えて、全国特別重点調査で12.8kmの点検調査を実施しました。その結果、補修が必要な箇所は、156箇所であることが判明しました。	17.6km	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、2026年度以降も劣化状況を把握するための業務を実施し、予防保全型維持管理に努めます。また補修が必要と判明した156箇所については、2026年度以降補修を実施します。
2	個別計画	調整池の管理計画の策定	下水道部が管理する124箇所の雨水調整池について、浚渫や草刈りを計画的に実施するため管理計画の策定を行います。	管理計画の策定	完了	○	浚渫については、過年度の点検データから必要な浚渫土量や浚渫箇所の抽出を行いました。草刈りについては、過去における要望の有無や交通障害、住居被害といった現地状況を、124箇所のうち91箇所を確認しました。	浚渫については、上半期で整理したデータを基に維持管理計画を策定します。草刈りについては、残りの33箇所の調査を進めるとともに、過去の要望や現地状況を基に維持管理計画を策定します。	現地確認や過去データを基に維持管理計画を策定しました。浚渫については、貯留量を確保する必要がある調整池61箇所を抽出し、対象調整池について、1~2箇所/年(184.55㎡/年)のペースで実施する計画としました。草刈りについては、全ての調整池の調査を完了し、調整池内の草や防草シートの状態を把握しました。市民要望に対して効率的な草刈りが実施できるよう優先順位を設定しました。また、アスファルト舗装の方が草刈りよりも経済的である調整池を21箇所(9564.8㎡)抽出し、対象調整池を478㎡/年で舗装を行う計画としました。	完了	C	C:目標水準を達成したためです。	維持管理計画を基に、浚渫及び草刈りを実施します。また、21箇所の調整池に対してアスファルト舗設工事を実施します。
3	個別計画	対象水路の点検	2023年度に策定した点検要領に基づき点検を実施します。点検結果を基に、水路構造物の劣化状況を取りまとめます。	点検延長	8km	○	水路等の劣化状況の点検・調査に関する業務委託契約を6月に締結し、同月に調査に着手しました。	水路構造物の点検・調査結果を分析し、劣化状況の評価します。	8kmの点検延長について点検調査・評価及びデータ整理を行い、水路構造物の劣化状況を取りまとめました。	8km	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、対象水路の点検を進め、2026年度中に点検を完了させ、2027年度に水路の修繕計画を策定します。

順位	計画 類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価	評価の 視点	課題と対応
4	個別 計画	(業務効率化) 適切な文書の 管理と活用	①管路及び水路の維持管理業務委託で使用している文書の電子化に向け、試行及び評価を行います。 ②公共ますの自費工事に関する申請を電子化します。 ③他企業が下水道施設に近接して施工する際に、市へ提出する通知文書について、電子化に向けた試行及び評価を行います。	①試行及び評価 ②実施 ③試行及び評価	完了	○	①作業完了時に提出される報告書の電子化に向け、運用方法を構築し、電子メールを使って報告書の受け渡しを行う試行を開始しました。 ②工事着手に関する申請の電子化に向け、工事店に対して窓口やホームページを活用し申請方法の周知を行いました。 ③通知文書の電子化に向け、運用方法の構築し、他企業に対して窓口や電子メールを活用して運用方法の周知を行いました。	①③は年度末にかけて試行し、紙文書の削減量が評価を行います。 ②は電子化を実施します。	①報告書の電子化を行った結果、文書保存箱1箱分の文書量を削減できました。また、これにより報告書を探す手間が減り、勤務間インターバルが適切に確保できました。 ②工事着手に関する申請を電子化しました。 ③通知文書の電子化を行った結果、文書保存箱1箱分の文書量を削減できました。他企業からは、来庁する手間が減ったことで好評を得ています。	①完了 ②実施 ③完了	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き業務効率化に資する電子化を進めます。その他にも、文書量削減に繋がる書類の精査を進めます。
5	人材 育成	「改革・改善志向」	災害時に迅速に対応できるようBCM部会が実施する研修に参加します。	研修の参加回数	2回	○	8月にBCM部会が開催した防災システムの入力研修に参加し、災害時の迅速な対応に資する研修を受講しました。また、研修後のアンケートに回答し、今後の研修内容の検討材料を提供しました。	BCM部会が実施する2回目の研修に参加します。また、研修受講後に職員の習熟度を確認します。	8月及び11月にBCM部会が開催したBCP訓練に参加しました。また、終了後に職員の習熟度を確保するためのアンケートに回答しました。併せて1月に防災課主催の震災対応訓練(図上)に参加しました。年間を通じて災害時に迅速に対応ができるよう人材育成に取り組みました。	3回	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、全職員が災害時に迅速な対応ができるよう人材育成に取り組みます。
6	個別 計画	下水道部所管の 土地利活用	下水道部が管理する土地を利活用します。	土地利活用箇所を選定	2箇所	○	下水道用地、調整池において、自動販売機や看板設置に向けて利活用できる土地であるか、現地状況の確認を行いました。	調査した、下水道用地と調整池の中から、利活用できる箇所に自動販売機や看板を設置します。	下水道用地において、自動販売機を3箇所とFC町田ゼルビアの看板を1箇所設置しました。また、自動販売機については、目的外使用許可による使用料と共に、売上の分配に関する契約を結ぶことで、使用料と売上分配金の両方から収入を得ることができるようになり、より多くの収入を得ました。	4箇所	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	引き続き、自動販売機や看板設置の促進をすると共に、収入を増やすために下水道用地の新たな利活用方法について更に検討します。
7	事務 事業 見直し	下水道事業の 民間活力導入 に関する検討	適正な事業手法を目指すために、事業の計画段階で事業者の意見や意向の把握(マーケットサウンディング)を行いながら、複数の事業スキームを評価し、選定作業を行います。	下水道事業手法の選定	完了	△	6月に国が主催する「水分野のPPP/PFI(官民連携)推進会議」に参加し、最新の動向、ガイドラインの更新状況などを確認しました。7月にウォーターPPPに係るマーケットサウンディング(参入意向)調査資料を作成しました。事業スキーム案の検討に時間を要したことから、当初予定していたマーケットサウンディングの実施時期に遅れが生じています。	10月以降にマーケットサウンディングを行い、複数の事業スキームを評価し、下水道事業手法を検討します。	国が主催する「水分野のPPP/PFI(官民連携)推進会議」に参加し、最新の動向、ガイドラインの更新状況などを確認しました。また、12月にマーケットサウンディング(アンケート)を行い46社から回答を受領しました。また、ウォーターPPP導入の必要性や事業スキーム(案)についての説明会を開催しました。ただし、マーケットサウンディング前の事業スキーム案の検討に時間を要したことから、事業スキーム案の選定まで至りませんでした。	未完了	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	今後も事業スキーム選定に向けて詳細なマーケットサウンディング調査を実施します。選定した下水道事業手法に応じた事業者への個別ヒアリング、発注図書の作成準備、公募・選定の方法等を検討していきます。
8	個別 計画	新たな下水道 GISシステムの 導入	下水道GISの更新に伴い、新たなシステムを導入します。	新たな下水道GISの導入	完了	○	新たなシステムを構築し、9月から試験運用を開始しました。	10月から新下水道GISシステムを稼働します。	予定通り10月から新下水道GISシステムを稼働しました。新旧下水道GISの切り替えを平常業務に支障なく進めることができました。また従来紙で保管していた管路の点検・調査結果などの維持管理データを下水道GISに取り込むことで、情報の電子化および一元化の検討を行いました。	完了	C	C:目標水準を達成したためです。	2026年度以降も業務の効率化に向けて、管路の点検・調査結果などの維持管理データをシステムに取り込みます。

部課名		下水道部水再生センター											
課の使命		・下水処理施設の計画的な点検・調査・改築更新の実施、耐震化の促進により施設の機能を維持することで、市民が快適に生活できる環境を整えます。 ・再生可能エネルギーの活用や下水の高度処理の導入など、環境負荷の少ない処理場運営を進め、地球環境の保全と循環型社会へ貢献します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	成瀬クリーンセンターの耐震化	減災対策として簡易放流施設の工事を実施します。	工事進捗率	25%	—	財源確保のため、国費要望に取り組みんでいます。	次年度実施に向けて、引き続き国庫補助金の確保に向けた要望活動を進めます。	今年度は国庫補助金を確保できなかったため、工事を実施することができませんでした。令和8年度の社会資本整備総合交付金については、2025年11月に東京都経由で国土交通省に本要望を提出し、国庫補助金を確保するための要望活動として、2026年1月に国土交通省を訪問し、要望書を提出しました。	0%	D	D:取り組みましたが、成果が十分ではありません。	簡易放流施設の工事を計画通り進捗させるため、施設運営や他工事との調整、施工管理を適切に行う必要があります。
2	重点事業プラン	鶴見川クリーンセンターの耐震化	2023年度から行っている焼却炉棟及び煙突基礎の耐震補強工事(2023~2025年度)を引き続き実施します。なお、煙突基礎の耐震補強工事については、2024年度に完了しています。	工事進捗	1号焼却炉棟工事完了	○	工事は順調に進んでおり、本年度中の完了を目指し、工程管理を適切に行っています。	関連工事との調整、施工管理を適切に行い、工事完了を目指します。	鶴見川クリーンセンター1号焼却炉棟耐震補強工事は、12月に完了しました。	1号焼却炉棟工事完了	C	C:目標水準を達成したためです。	—
3	個別計画	ストックマネジメント計画(第II期)に基づいた下水道事業の推進	設備の詳細調査を行い、劣化状況、重要度に応じた修繕計画を作成することで、維持管理コストの平準化を図っていきます。	詳細調査の件数	10件(第II期累計40/50件)	○	年度目標10件のうち、上半期に予定していた成瀬クリーンセンターの1件、鶴見川クリーンセンターの1件、合計2件の劣化状況調査を行いました。成瀬クリーンセンター終沈汚泥かき寄せ機は機能が確保できていることを確認しました。鶴見川クリーンセンター沈砂池自動除塵機はローラーガイド部に摩擦が見つかったため、応急処置を行った後、早急に修繕ができるように計画を立てました。	下半期に予定している8件の詳細調査を計画的に実施し、設備の劣化状況を把握し、改築更新および修繕の計画に反映します。	設備の詳細調査を予定どおり10件実施しました。調査の結果、成瀬クリーンセンターにおいては、軽微な劣化が確認された設備2件(水処理棟散気装置・終沈汚泥かき寄せ機)について、補修を実施することで、機能回復を図りました。鶴見川クリーンセンターにおいては、軽微な劣化が確認された2件(沈砂池自動除塵機・汚泥棟電気室蓄電池盤)について、補修を実施することで、機能回復を図りました。他6件については、顕著な劣化は確認されませんでした。	10件(第II期累計40/50件)	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、劣化状況を調査し、計画的な維持管理を進め、コストの平準化を図っていきます。
4	個別計画	下水処理水の水質向上	①老朽化した散気装置(※1)を交換することで効率化を図ります。 ②2021年度から実施しているB-DASH技術に関する自主研究の7項目のうち、取り組み中の4項目について、データの取得を目指します。 ※1 汚水を処理するため、微生物の活動に必要な空気を反応タンクに送り込む装置。	①高効率散気装置の導入率 ②自主研究データ取得件数	①50%(累計) ②4件	○	①交換する散気装置(鶴見川クリーンセンター1池)について、4月に物品購入契約を締結しました。 ②自主研究4項目についてデータの取得を行いました。 ・AI制御の長期安定性の確認 ・池間の水質濃度差の補正 ・N2O排出量の抑制 ・アンモニアの濃度による制御	①11~12月に鶴見川クリーンセンター1池について散気装置の交換作業を実施します。 ②引き続き自主研究4項目についてデータ取得を行います。	①鶴見川クリーンセンターの1池について、老朽化した散気装置を高効率散気装置に交換し、処理効率を向上させました。 ②B-DASH技術の実用性をより高めるための自主研究として、以下の4項目の先進的な研究を行い、技術の安定性、信頼性を確認しました。 ・AI制御の長期安定性の確認 ・池間の水質濃度差の補正 ・N2O排出量の抑制 ・アンモニアの濃度による制御	①50%(累計) ②4件	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、コスト削減及び更なる水質の向上を目指した調査を継続し、最適条件の確立と評価に向けた研究を継続して行います。

順位	計画類型	取組項目	年度目標設定			中間確認		年度末確認					
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
5	-	「ゼロカーボンシティまちだ」に向けた取組	①町田市第5次環境配慮行動計画に基づき、2030年度末までのカーボンハーフ達成に向けて、焼却炉の高温処理によりN2O排出量を削減し、温室効果ガス排出量の削減率46%達成を目指します。 ②省エネルギー性能に優れた汚泥焼却炉に更新するため、2021年度から行っている汚泥焼却設備工事(2021～2026年度)を引き続き実施します。	①温室効果ガス排出量の削減率 ②汚泥焼却設備工事事業進捗率	①46% ②74% (2026年度完了予定)	○	①両クリーンセンターでは、排出係数ゼロの電力を使用し、温室効果ガス排出量の削減に努めています。さらに成瀬クリーンセンターでは、焼却炉の高温焼却運転によるN2Oの削減を進めています。 ②工事完了を目指し、工程管理を適切に行いながら、施工を進めています。	①引き続き、温室効果ガス排出量の削減を続け、効率的な施設の運営を行ってまいります。 ②関連工事との調整、施工管理を適切に行ってまいります。	①排出係数ゼロの電力を導入したことにより、環境に配慮した施設の運営を行いました。成瀬クリーンセンターでは60%、鶴見川クリーンセンターでは38%、両センター合計で53%の削減を行いました。 ②関連工事との調整、施工管理を適切に行い、施工を進めました。工事は2026年度に完了する予定です。	①53% ②74%	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	①引き続き、温室効果ガスの削減に努めます。 ②2026年度に汚泥焼却設備工事を完了させるため、引き続き関連工事との調整、施工管理を適切に行う必要があります。
6	事務事業見直し	業務・事務の効率化	成瀬クリーンセンター及び鶴見川クリーンセンター間の脱水汚泥運搬業務の事業手法を検討します。	汚泥運搬車両の購入	購入契約完了	△	汚泥運搬車両購入の入札を、2027年度中の納車に向けて実施しましたが、不調となりました。	汚泥運搬車両購入について、適切な時期に再入札を行い契約につなげていきます。また、運転手の調達方法等、車両運用に関わる方向性を検討します。	汚泥運搬車両購入について、12月に再入札を行い落札者と契約を結ぶことができました。また、運用方法について、運転手の調達方法の検討に着手しました。	購入契約完了	C	C:目標水準を達成したためです。	2027年度納車後の実運用に向けて、運転手の調達方法等、車両運用に関わる方向性を検討し準備を進めます。
7	事務事業見直し	下水道事業の民間活力導入に関する検討	適正な事業手法を目指すために、事業の計画段階で事業者の意見や意向の把握(マーケットサウンディング)を行いながら、複数の事業スキームを評価し、選定作業を行います。	下水道事業手法の選定	完了	△	6月に国が主催する「水分野のPPP/PFI(官民連携)推進会議」に参加し、最新の動向、ガイドラインの更新状況などを確認しました。7月にウォーターPPPに係るマーケットサウンディング(参入意向)調査資料を作成しました。事業スキーム案の検討に時間を要したことから、当初予定していたマーケットサウンディングの実施時期に遅れが生じています。	10月以降にマーケットサウンディングを行い、複数の事業スキームを評価し、下水道事業手法を検討します。	国が主催する「水分野のPPP/PFI(官民連携)推進会議」に参加し、最新の動向、ガイドラインの更新状況などを確認しました。また、12月にマーケットサウンディング(アンケート)を行い46社から回答を受領しました。また、ウォーターPPP導入の必要性や事業スキーム(案)についての説明会を開催しました。ただし、マーケットサウンディング前の事業スキーム案の検討に時間を要したことから、事業スキーム案の選定まで至りませんでした。	未完了	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	今後も事業スキーム選定に向けて詳細なマーケットサウンディング調査を実施します。選定した下水道事業手法に応じた事業者への個別ヒアリング、発注図書を作成準備、公募・選定の方法等を検討していきます。
8	人材育成	「改革・改善志向」	下水道事業会計の現状に対する理解を深めると共に、経営意識を高めることを目的とした研修を課内で実施します。	開催回数	1回	○	下半期実施に向けて準備中です。	11月に実施します。	決算書を用い、町田市下水道事業の財務状況を把握するとともに、経営意識を高める研修を2月に実施しました。	1回	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き経営意識を高める研修内容に取り組んでいく必要があります。